登下校中の災害対応ガイドライン～地震・不審者・大雨～

共通事項　　自分の命は自分で守る

地震の場合

【揺れを感じたら】
・止まって、周りを見る。
・「落ちやすいもの」「倒れやすいもの」「動きやすいもの」から、はなれる。
　落ちやすいもの…屋根、瓦、電線、 看板、割れたガラス、木の枝など
　倒れやすいもの…ブロック塀、電柱、木、自動販売機など
　動きやすいもの…車、自転車など
・ランドセルなどで、頭を守る。
※大きな地震の時は、動かない。近くの安全な場所へ行ったら、その場で待つ。
【揺れが収まったら】
・周りに危険なものもなく、安全な場合は登下校する。（その場で、自分で判断する。）
・判断に困った場合、その場で待機。子ども１１０番の家やその場の近くの地域に方に助けを求める。
※「おかしもち」を意識して落ち着いて行動する。

不審者の対応

【遭わないようにするために】
・一人で帰らない。
・通学路を通る。
【もしも、不審者に遭ってしまったら】
・近づきすぎない。相手との距離をおく。（お互いの「前ならえ」の距離より近くにいかない）
・不審者に声をかけられたら、どんな内容であっても断る。
（相手が知らない人なら、断る。または、「分かりません。」と言う。名前や家の場所は、教えない）
・断ってもさらに、話しかけてくる時には、すぐにその場から離れたり、近くの家や子ども１１０番の家に逃げ込んだりする。（「ただいま」と言って逃げ込むと、「すぐそばに家がある」と勘違いさせることができます。）
・危険を感じたら、迷わず防犯ブザーを鳴らしたり、大声を出したりして周りに危険を知らせる。
・車がある場合は、絶対に乗らない。（逃げる時は、車の後ろ側に逃げる。）
※「いかのおすし」を守る。
いか…いかない。 の…のらない（知らない人の車に） お…大きな声で叫ぶ す…すぐ逃げる し…知らせる

大雨の対応

・歩けるくらいの雨なら、登下校する。
・歩けないほど大雨の時には、近くに屋根のある場所があれば雨宿りする。その場で待機する。近くの１１０番の家に助けを求める。
（雷がなっている場合、木の下で雨宿りしない）
・危険な場所から離れる。（用水路や水がたくさんたまっている道路など）
・しばらく待機しても何も変わらない場合には、子ども１１０番の家や近くの地域の方に助けを求める

地域の方に助けを求めることが多くあります。いざという時のために、
毎日地域に方に進んで挨拶をして顔を覚えてもらいましょう。